

80周年記念式典 生徒会長の言葉

御影高等学校は、今年で創立八十周年の節目の年を迎えました。その記念すべき年に、御影高校生の一員として今この場に居られることをたいへん嬉しく思います。

八十年前、御影高校の前身である兵庫県立第三神戸高等女学校が設置された昭和一六年は、第二次世界大戦の真っただ中、太平洋戦争の始まりの年です。世の中に緊迫した空気が漂い始める中、当時の女性に教育の場を設け、その後の神戸大空襲、平成七年の阪神淡路大震災といった数々の苦難を乗り越えて、学びの場を守り続けてくださった先人の皆様方に心から感謝したいと思います。

私が、御影高校に入って感じていることは、先生や友人たちが本当に素晴らしいということです。先生方は、勉強を教えるだけでなく、部活動や生徒会活動にも情熱をもって指導して下さいます。また、友人たちはそれぞれに目標や信念を持って日々努力しているため、私はとても良い刺激をもらっています。このような素晴らしい人たちに囲まれ、私は御影高校生であることを大変誇りに思います。

昨年、私たちの入学した年は、約二か月の休校から始まりました。その後も文化祭の中止や行事の簡略化が余儀なくされ、肩を落とした生徒も多くいました。そんな中、私たちは少しずつこのコロナ禍にも慣れ、対策法を身に付け、今年は夢野台高校との定期戦、文化祭などを開催することが出来ました。

出来ない事を嘆くことは簡単ですが、御影高校生はそれでは終わりません。不自由な中でも出来ることは何かを常に考え、楽しむ、これこそが御影高校で学んだことです。

今、創立八十周年を機に、御影高校は着実に新たな時代へと進んでいます。現状に満足せず、常に問題を見つけ解決する。御影高校生のあるべき姿です。

御影高校の卒業生には、あらゆる分野で活躍されている先輩方がたくさんおられます。私たちもその先輩方のように、社会貢献のできる人材になることを目指して勉強や自分磨きを続けたいと思います。

先生方、先輩方、地域の皆様、わたしたちにこの素晴らしい御影高校で学ぶ機会を与えてくださり、ありがとうございます。また、今後も温かく見守り、ご指導、ご支援いただけますようよろしくお願いいたします。

令和3年10月29日

兵庫県立御影高等学校 生徒会長 三好芳佳